

岩美海岸浜崖後退抑止工検討会の開催結果（概要）

日 時：平成29年8月21日（月）午後2時30分から午後4時20分

場 所：岩美町役場 2階ミーティング室

参加者：別添名簿のとおり

- ・「対策工法」および「試験施工方法」について、事務局提案のとおり行うことで一致した。
- ・今後は、選定された対策工（サンドパック工法）に着手し、冬季までの完成を目指す。
- ・試験施工の評価については、ひと冬を越え、モニタリング結果をまとめた後、当検討会にて効果検証していく予定。

1 あいさつ

（鳥取県県土整備部河川課長）

- ・近年、浜崖・侵食が顕著になっている岩美海岸において、その対策にかかる技術的な方策を検討することを目的とする。その中で、サンドパック工法という新たな工法の導入を提案して行きたい。活発な議論をお願いしたい。

（黒岩教授）

- ・鳥取県では、海岸侵食の対策として、全国に先駆けて鳥取沿岸の総合的な土砂管理ガイドラインを策定し、それ以降も、サンドリサイクル、サンドポンプなど先進的な取り組みを行っている。
- ・今回、検討するサンドパックについても先進的な取り組みであり、天然海岸として価値の高い東浜海岸を守っていくにあたり、重要な検討であるため、皆様のご意見をいただきながら、良いものにしていきたいと思う。

2 議事

（1）趣旨説明

（事務局）

資料1に沿って説明

（2）検討対策の詳細説明および意見交換

（事務局）

資料2に沿って説明

（岩美町商工観光課長）

- ・サンドリサイクルが実施されているが、海にも多くの砂が堆積している。東漁港防波堤の先端部の水深は10m程度あったものが、最近では5m程度になっている。特に、東漁港の南防波堤建設後に浜の侵食が進行してきたように思う。今後の考え方として、南防波堤を一部壊すなどもあっていいのではないかと思う。

（事務局）

- ・東漁港の建設が海岸侵食の要因になっているのは確かなこと。長期的（根本的）な対策は、今後の知見・モニタリング結果の集積を踏まえて、今後の検討事項とする。本検討会での目的は、浜崖後退抑止工検討であり、あくまで「現況浜崖位置を維持（原則、現況浜崖よりも後退させない）」ことである。

（黒岩教授）

- ・陸上地区では、最近では浜崖が東側で発生しやすくなっているのか。資料を見ると、浜崖は少し前では西側で顕著だったようだが、潜り突堤が建設された後は東側で顕著になっているようである。

（事務局）

- ・資料2（P.1）に記載している大型土嚢の設置箇所が近年の浜崖発生箇所に該当する。ご指摘のように、東側での発生状況が顕著となっている。

（岩美町商工観光課長）

- ・サンドパックの耐用年数はどれくらいか。土嚢のようにボロボロになるまでの期間はどれくらいか。また、アンカーチューブによる対策のイメージがわからない。波浪への対策はどのようになっているのか。設置する深さはこれで問題ないのか。

（事務局）

- ・耐用年数は10年程度である。波浪によるサンドパック前面の洗掘対策として、洗掘防止シートを敷いて、さらにその先端に洗掘に追従するアンカーチューブを設置するものである。設置深さについては、マニュアルに記載されているものを採用している。

（黒岩教授）

- ・サンドパックを設置することで、養浜量を減らすことができるようになるのではないかと
思う。

（事務局）

- ・「養浜のみ」の場合と「サンドパック+養浜」を比較すると8年目に累積の工事費が逆転し、
「サンドパック+養浜」が経済的となる。

（鳥取県県土整備部河川課長）

- ・耐用年数の10年とは、実績から言えるものなのか。

（事務局）

- ・新しい工法であるため、これまでの実績では、まだ10年経過した事例はない。耐用年数は
サンドパックに採用されている素材の耐久性から、最も厳しい状況を想定した中で設定され
たものである。特に、露出することで紫外線や摩耗によって劣化が進行するため、露出状況
によって実際の耐用年数は変わってくる。

（鳥取県県土整備部河川課長）

- ・洗掘対策の状況が一番気になる。まずはマニュアルに従った深さなどで試験施工を実施して
いきながら、状況を確認していくことになると思う。

（環境省近畿地方環境事務所浦富自然保護官事務所自然保護官）

- ・これまでの説明を聞いたなかでの確認になるが、冬にもサンドパックが砂の中であって露出
していない状況が理想的な状況であるが、露出した場合は劣化が進み、10年程度の耐用年
数となるという理解でよいか。

(事務局)

- ・露出している場合の耐用年数は10年程度となる(メーカー確認)。理想は冬季風浪後にサンドパックが露出せずに砂に埋まった状況である。

(鳥取県県土整備部空港港湾課係長)

- ・高波浪時にサンドパックが被災するとあるが、どのような状況になるのか。

(事務局)

- ・高波浪によってサンドパックの前面が洗掘されることで、サンドパックが海側へ傾いて転倒するなどして被災することになる。

(黒岩教授)

- ・試験施工では、養浜はサンドパックの背後だけとなっているが、サンドパックは全体に露出した状態になるのか。

(事務局)

- ・冬季風浪直前ではあるが、なるべくサンドパックが砂中に隠れるようにしたいとは考えている。

(黒岩教授)

- ・サンドパックについて、A社とB社の製品の大きさは同じか。大きさや先ほど見た表面の素材が違うため、粗度なども異なってくると思う。違うもの同士を隣合わせて施工すればその影響も生じてくることになる。

(事務局)

- ・資料2(P.22)に記載のとおり、ご指摘の影響が懸念されるため、試験施工では2つの試験施工区間を設け、1区間に1社ずつの製品を設置する方針としたいと考えている。

(黒岩教授)

- ・試験施工中の測定の頻度はどうなっているのか。

(事務局)

- ・資料2(P.26)に記載のとおり、施工直後と越冬後を想定しているが、施工直前にも実施することとし、計3回測定を実施する。

(岩美町商工観光課長)

- ・本施工に向けたスケジュールはどうなっているのか。試験施工で失敗した場合は、もう一度検討するのか。

(事務局)

- ・本施工に向けたスケジュールは資料2(P.18)に記載した内容を現時点では想定している。今後は、試験施工中のモニタリングを行い、その結果についてとりまとめたものを本検討会に図り、その中で議論させて頂きたいと考えている。

(黒岩教授)

- ・試験施工は、単年ではなく数年しないとわからないこともある。波浪の状況次第になるのではないかと。

以上